

煩惱具足の凡夫 火宅無常の世界は もろつものごと みなもてそら ごと たわごと まごとあるごとなきご(ただ念仏のみぞまごごにたおはします)

【現代語訳】わたしどもはあらゆる煩惱をそなえた凡夫であり、この世は燃えさかる家のようにたちまちに移り変わる世界であつて、すべてはむなしくいつわりで、真実といえるものは何一つない。(その中であつて、ただ念仏だけが真実なのである。)

親鸞聖人(唯円) 歎異鈔より

① お釈迦様 諸行無常

この世のすべてのものは(私の命も)、必ず滅びゆく方向に向かつて刻々と変化し続けている。同じ状態は決してない。 真実

② 聖徳太子 世間虚仮 唯仏是真

この世にある物事は、すべて仮の物であり、仏の教えのみが真実であるということ。(無常は真実である)

学生のセツページ①「この世の無常さを認識し、生かされている命に感謝します。」

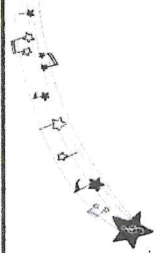
学生のメツページ②「散る桜 身をもつて示す 仏かな」

良寛 「散る桜 残る桜も 散る桜」

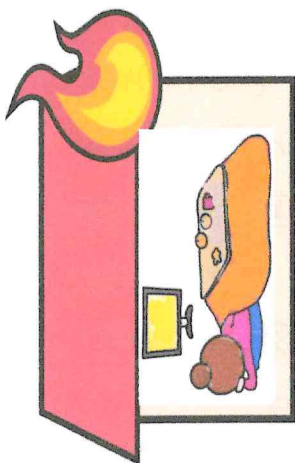
③ 野口雨情作詞 しやぼんだま



一、しやぼんだまとんだ やねまでとんだ
やねまでとんで こわれてきえた
二、しやぼんだま きえた とぼずにきえた
生まれてすぐに こわれてきえた
三、風風ふくな しやぼんだまとぼそ



④ 親鸞聖人 火宅無常の世界



火宅とは、今住んでいる自分の家の軒先が燃えているのに、そのことに気づかず、のんびりと家の中で過ごしている様子です。すなわち、わたしの明日の命は絶対大丈夫、一ヶ月後も大丈夫、一年後もまあ大丈夫、三年後もそれなりに生きていだろう、と油断している人間の心模様をあらわしています。でも、明日の命だれ一人として保証されていない、これぞ真実です。毎日の生活の中でも、私達は家族・親子・夫婦・お金(財産)・地位・健康・等々、これらを頼りにし、当てにして生きているのではないのでしょうか?

しかし、親鸞様もお釈迦様も「これらは全て頼りにならない、当てにならないものばかりですよと、誠めてくださり、阿弥陀様のお救いのみ頼りになるのですから、お念仏申す人生を送りなさい。」と、導きくださっているのです。